

**We live in the era of a mind !**

**『こころの時代』を生きる**



**— 中高生のこころと対応 —**

発達障害、非行、いじめ、不登校など近年の子どもたちの抱える問題は多様です。そのため、学校と家庭は勿論、地域の諸機関が連携して子ども達を支えることが必要になっています。

本講座では教育・医療・矯正・福祉など様々な場に携わってきた心理学の専門家たちが、中高生への心理的支援と地域連携についてお話しします。中高生の教育に関わる皆さんに向けたコースです。

**Hiroshima International University Extension**

# 『こころの時代』を生きる —中高生のこころと対応—

- 日程 2017年5月21日（日）～8月20日（日）全4回 15:00開始、16:30終了
- 会場 広島国際大学 広島キャンパス400教室（広島市中区幟町1-5）
- 参加資格 中高生の教育・支援に携わる方、および保護者の方
- 参加定員 50名
- 参加費 無料

## プログラム

No.	開催日	テーマ	講義内容	講師
1	5/21 (日)	子どもの不安とうつ、問題行動 ～学校・家庭はどのように かかわっているか～	子どもの健全な成育のためには学校と家庭の連携が必要だといわれています。では、うつ・不安、多動・問題行動などの発現や増悪、あるいは軽減に、どんな学校・家庭環境が関係しているのでしょうか？ 実態調査のデータも紹介しながら考えます。	岩田 昇 (心理学部 教授)
2	6/18 (日)	発達障害の難しさ ～どう捉え、どう関わるか～	発達障害は、その障害の難しさだけでなく、障害を理解してもらうことがなかなかできず、誤った捉え方や対応をされてきています。そのため二次障害を引き起こす子どもたちも少なくありません。まず周囲が障害や関わり方を理解することが重要です。そのための講義です。	伊藤 啓介 (心理学部 准教授)
3	7/23 (日)	子どものいじめ	些細なきっかけからいじめの対象になっていった時に、孤立することが恐ろしく、我慢をして集団にいることのつらさは、不登校へと繋がる危険性をはらみます。今回は、いじめへの現状と、大人としての対応の方法をお話します。	向笠 章子 (実践臨床心理学 専攻 教授)
4	8/20 (日)	非行の理解と対応	非行行動を選択する背景には何があるのか。特に思春期に問題が深刻化する性問題行動と薬物依存について、理解と回復支援の方法例についてお話します。	毛利 真弓 (心理臨床センター 助教)

- 申込・問い合わせ先：下記が申し込みに必要な内容になります。いずれかの方法で御連絡下さい。

1. E-mail HIU.Chiiki@joshu.ac.jp 「公開講座『こころの時代を生きる』」宛
2. FAX 0823-70-4931 （下記に記入し、直接送信して御申し込みいただいても結構です。）
3. 電話 0823-69-6034 地域連携センター 公開講座担当者 宛



E-mailの  
QRアドレス

申込者氏名	
連絡先	
中高生との関わり (該当する項目に○)	教諭 保護者 スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー その他 ( )